

政策提言

一人一人が輝き持続可能で誰もが元気に暮らせるまち”日野”に

令和5年(2023年)4月27日

日 野 町 議 会

政策提言

一人一人が輝き持続可能で誰もが元気に暮らせるまち”日野”に

1. はじめに

令和3年の日本の合計特殊出生率は、5年連続で前の年を下回り1.30人となり、滋賀県では1.46人、日野町においては1.33人（出生数116名）となりました。

新型コロナの影響と婚姻の晩婚化も合わせて、今年は更に低下する見込みであり、より一層超高齢化社会に突入するのではないかと危惧しています。地方にとっては、この少子高齢化により更に人口減少が続き、地域の衰退が進み、地域の産業・農業の存続が危ぶまれています。

一方、新型コロナウイルス感染予防対策により、テレワークやワーケーションなどが推奨され、若者を中心に地方への志向が高まり移住が進んでいることは、地方の住環境の良さが見直されていることも事実として現われてきています。

また、SDGs（エス・ディー・ジーズ、持続可能な開発目標）、での目標11には「住み続けられるまちづくりを」を実践していくことが掲げられており、真の豊かさを実感できる持続可能な地域社会を構築していくことが求められています。

日野町においても、少子高齢化、空き家・空き地問題や過疎化問題などを含め、構造的な課題が顕著に現われてきました。これらの諸課題に真正面から立ち向かい、第6次日野町総合計画にある「一人ひとりが輝き持続可能で誰もが元気に暮らせるまち”日野”」を目指していく必要があります。そのために、行政と地域住民が町の自治の力を生かし、民間企業やNPOなどの組織団体とも共創し、自主的に主体的に地域の未来を描き築いていく他ありません。地域活性化の主役は町民であり、行政はコーディネーター役として総力を結集し推進していくことが重要です。

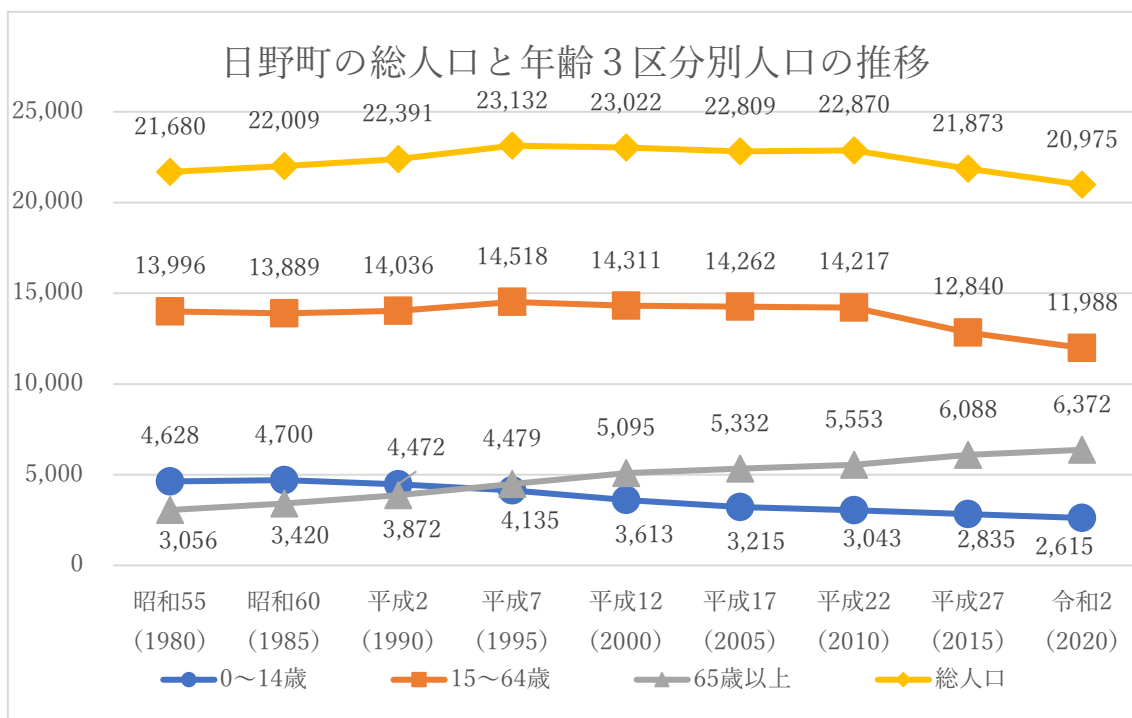
町は「ひと・組織」を活かし、柔軟な財政運営で「しごと」を創り、未来が明るい「まちづくり」にしていくために「まちの地方創生」として提言を取りまとめることにしました。

2. まちの現状

① まちの人口と年齢3区分別の人口推移（次ページに数値とグラフ）

まちの人口は、昭和から平成にかけて緩やかに増加傾向にありましたが、平成の中頃には平坦に推移、後半から減少傾向となり、令和2年は2万1千人を割り込みました。年齢3区分別の人口推移をみると、出生数の減少により年少（0～14歳）人口は着実に低下しており、生産年齢（15～64歳）人口においても、平成22年から極端に低下に転じました。この生産年齢人口の減少は、進学や結婚等によって、まちから転出していることが考えられています。

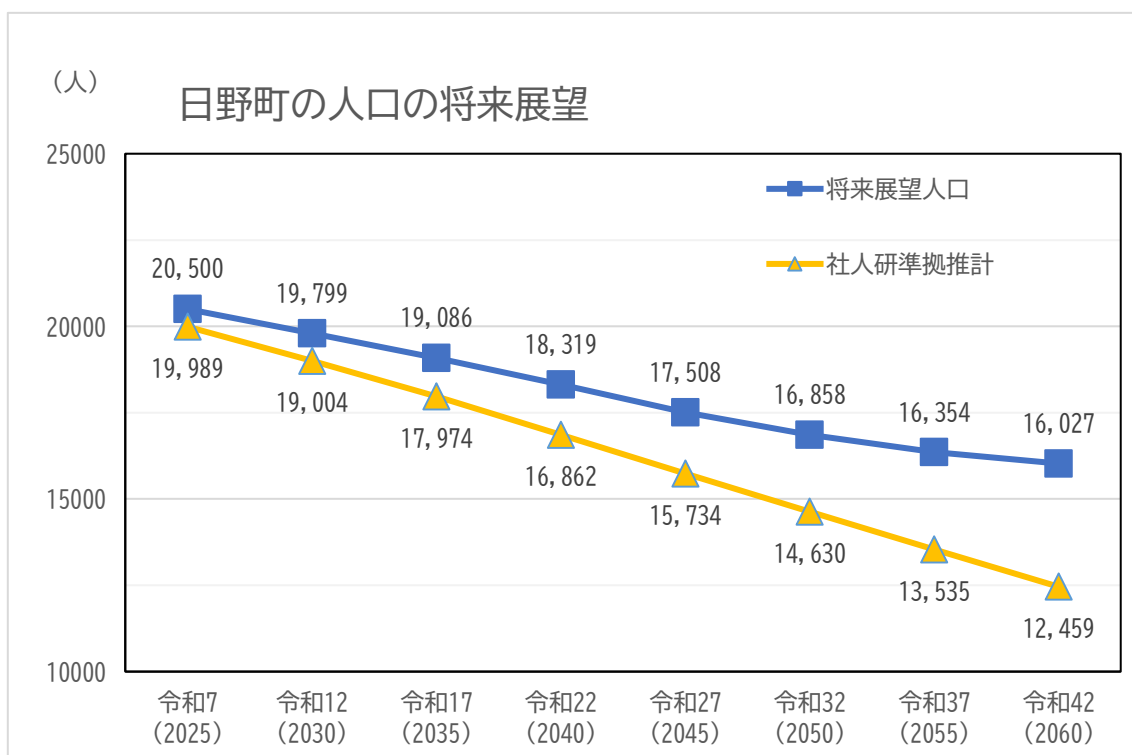
これに対して、老年（65歳以上）人口は顕著に上昇してきており、超高齢化社会に突入していることがこの数字により明らかです。



出典：各年国勢調査（総務省）、令和2年は日本の地域別将来推計人口
（国立社会保障・人口問題研究所）

② まちの将来展望人口

国立社会保障・人口問題研究所（社人研）により推計した長期人口は、今後も減少を続ける「人口減少社会」となっていくと言われてしています。これにより、まちは第6次日野町総合計画、第2期日野町くらし安心ひとづくり総合戦略により、行政と住民、企業等による協働のまちづくりにより将来展望人口が示されており、人口減少を抑える動きとなっています。



③ 空き家の増加

まちの空き家は、平成に入り増える傾向にあり、令和元年度の調査からは557件の空き家があり、倒壊の危険性のある空き家も45件と大幅に増加していることが分かります。特に地域差はなく、何処の地区においても空き家の増加が顕著に表れてきています。

令和元年度 空家等実態調査による評価別の空家等数

地区	空家の数		すぐに入居可能 (A)		入居するには修繕を要する (B)		放置すると倒壊の危険有 (C)		倒壊の危険性有 (D)	
	戸	%	戸	%	戸	%	戸	%	戸	%
日野	210	37.7	95	45.5	72	36.4	29	27.6	14	31.1
東桜谷	58	10.4	21	10.1	16	8.1	16	15.2	5	11.1
西桜谷	39	7.0	9	4.3	19	9.6	5	4.8	6	13.3
西大路	61	11.0	19	9.1	27	13.6	13	12.4	2	4.4
鎌掛	27	4.9	17	8.1	3	1.5	5	4.8	2	4.4
南比都佐	21	3.8	12	5.7	4	2.0	5	4.8	0	0.0
必佐	141	25.3	36	17.2	57	28.8	32	30.5	16	35.6
合計	557	100.0	209	100.0	198	100.0	105	100.0	45	100.0

平成27年度 空家等実態調査による評価別の空家等数

地区	空家の数		すぐに入居可能 (A)		入居するには修繕を要する (B)		放置すると倒壊の危険有 (C)		倒壊の危険性有 (D)	
	戸	%	戸	%	戸	%	戸	%	戸	%
日野	179	41.5	78	48.8	70	41.2	23	29.9	8	33.3
東桜谷	54	12.5	12	7.5	19	11.2	16	20.8	7	29.2
西桜谷	32	7.4	5	3.1	22	12.9	2	2.6	3	12.5
西大路	44	10.2	16	10.0	18	10.6	8	10.4	2	8.3
鎌掛	17	3.9	7	4.4	2	1.2	7	9.1	1	4.2
南比都佐	22	5.1	13	8.1	8	3.5	2	2.6	1	4.2
必佐	83	19.3	29	18.1	33	19.4	19	24.7	2	8.3
合計	431	100.0	160	37.1	170	100.0	77	100.0	24	100.0

注)本調査における空家等とは、自治会からの聞き取り調査を基本として、水道閉栓情報、家屋や敷地の管理状況等から判断したものです。

出典：日野町空き家等対策計画より

3. まちが抱える課題と解決に向けた取り組み

少子高齢化による人口減少と同時に小家族化が進行し、空き家・空き地の増加から地域の衰退につながり、なり手不足からくる自治活動の減少など、地域を取り巻く環境は厳しさが増えています。

特に、「まちづくり」を考えた場合は、若者のニーズを的確に捉える必要が先決となります。若い人にとっては、自治会や祭りといったことを“しがらみ”と捉える人もいるため、具体的なニーズとして、画期的に若者人口が増える要素を盛り込む必要もでてきます。

こうした中において、町には自然が豊かでちょうど良い田舎暮らしができる居場所があり、歴史・伝統がある文化的資源が豊富な環境にあることも事実です。また、文化やスポーツ振興、青少年の育成の分野などでは女性を含む若手活動家の活躍が増えている面も見受けられます。

これらのことを認知した上で、このまちをどう維持発展させていくのか、10年先、20年先を見据え、日野の魅力あるまちづくりに行動を起こし、発信していく必要があります。このために、「ひとづくり」「しごとづくり」から「まちづくり」を精力的に進めていくための具体策を提案していきます。

1) 地域に関わっていく

今、地域においてはさまざまな課題が浮き彫りになっています。なり手不足による自治会活動の継承、祭りの存続、消防団活動の継続などは、若者の多様なニーズによってより難しくなっています。人に関わるのが大きく、これらの諸問題に目を背ける傾向が強くなりがちです。

しかし、「みんなで課題解決」していくこと、課題解決というと面白くないと思われがちですが、「関わること」、どうやって関わるかが課題解決につながると考えられています。まずは地域との関わり合いを増やしていくことが求められています。

そのためには、

- ・町の行事、地域の行事、自治会活動に参加してもらう。
- ・公民館行事、学校行事に参加してもらう。
- ・祭りを始め伝統行事に参加してもらう。
- ・消防団活動に参加してもらう。
- ・その中で地域との関わり合いを見つめてもらい、課題を共有していく。

結果、

地域に関わってもらえる人材が増え、住んでいる地域の課題が何なのかを考え、解決していこうと立ち上がる人が増えてきます。

2) 地域の担い手を発掘する

ひとつづくりと地域活性化は一体です。まず、地域住民には、住みよいまちづくりの必要性を感じ、公民館活動や地域行事に参加してもらうことから始めなければなりません。その後、まちづくりに興味を持ち、参画してもらうことによって、知識や技術を身につけていくことになります。

若者や高齢者、障がい者、外国人を含めたそれぞれの地域の中から多様な人材が発掘されていくです。その中で発掘された人材を、要所要所の担い手、後継者として育成していくことが求められています。

そのためには、

- ・ 出前講座、専門講座、各種研修会を積極的に行う。
- ・ 高齢者、障がい者、外国人など多様な人材の方とふれあう機会を設ける。
- ・ 公民館の運営委員、実行委員や民生委員、自治会役員などで人材を発掘し育成していく。
- ・ 若者会議で人材育成を図る。
- ・ さまざまな企画において、いっしょになってプランニングし、人材を育成していく。
- ・ 地域おこし協力隊を積極的にサポートし、人材の要とする。
- ・ U・I・Jターンにより、ふるさと回帰を進めて多様な人材を確保していく。
- ・ 農福連携により農業の担い手を確保していく。
- ・ RMO（地域運営組織：Region Management Organization）を立ち上げ、人材を確保していく。（地域の暮らしを守るため、地域で暮らす人々が中心となって形成され、地域内の様々な関係主体が参加する協議組織が定めた地域経営の指針に基づき、地域課題の解決に向けた取組を持続的に実践する組織）

結果、

まちづくりに活躍されるされる人材が増え、地域の担い手が確保されていくことにつながります。

3) 関係人口を増やす

地域活性化の担い手として、人への投資、企業・NPOなどへの支援を行い、多様な担い手を育成し確保する必要があります。地域や地域の人々と多様に関わる人々「関係人口」が地域づくりの担い手となることが期待されています。地域の関わりやつながりを持ちたい方、地域を応援したい方を支援していくことが求められ、更に移住を促進させるためには、空き家を活用してきめ細かな情報、サービスの提供を行い、二拠点居住も推進していくような工夫が求められます。

また、日野の文化を創造することによって、人が集まれる環境が作れます。若者が集まってくるような地域の魅力は、文化、伝統と新しい価値を融合させた創造的なイベント開催が継続的に行われることが効果的です。更には、日野の伝統的な食文化を広め、味わいを町内外に発信していくことも有効な手段です。

そのためには、

- ・空き家のリフォーム支援を拡大させ、日野に移住を希望される方への手助けを行う。
- ・移住コーディネーター（仮称）を設置し、きめ細やかな情報サービスの提供を行う。
- ・古民家のサテライトオフィスを拡充させ、リモートワーク環境の整備を行う。
- ・関係人口を増やす創造的なイベント、マルシェを定期的に開催する。
- ・日野の食、伝統食、味わいを拡大させ、情報を広く発信する。

結果、

日野を知ってもらうことができ、日野の魅力が浸透していき、関係人口が増えることとなります。

4) 若者に日野のまちづくりの過程を知ってもらう

日野町に住む若者は、進学により町外に転出してしまう傾向にあります。就職先と比較すると進学先は遠方になり、一旦転出して就職先を決めてしまうと日野には戻れず、戻りたいとしても再就職先がなかなか見つからないとした実情が見て取れます。また、転出先で結婚してしまうとなると戻る機会も失ってしまうことが想定できます。

そこで、日野で暮らすことで都会にはない優位性が得られる気持ちを持ってもらうことが重要です。

そのためには、

- ・日野にあるものを活かす。教育環境・医療関連等、生活に密着した部分を充実させていく。
- ・働きやすい就職先が近隣にある。（女性にとっても働きやすい就職先がある企業誘致を進める）
- ・結婚相手が見つかる環境にある。（婚活環境が整っている）
- ・安心して出産できる環境にある。（産婦人科施設が近隣にある、出産に関わる支援が充実している）
- ・子育て環境が整っている。（働きながら子育てできる長時間保育の施設が整っている、通院医療費の自己負担が軽減している、保育料は第2子以降0歳から無料になっている、保育所でのおむつを無償提供している、学童保育においても第2子以降無料などの支援が充実している）
- ・幼保・小中学校での教育が充実している。
- ・健康を考えた食環境、住環境が整えられている環境にある。
- ・余暇を楽しめる環境にある。（松尾公園、大谷公園の施設整備を充実させる）
- ・自然とふれ合える場所、機会が多くある。
- ・学べる環境、勉強できる（自己を高められる）環境がある。（図書館、子ども図書館含む）
- ・SNSで簡単に相談できる窓口がある。

結果、

一旦、日野を離れても、日野の良さが分かっているから、結婚して帰ってくる、第1子が生まれ帰ってくる、第2子が産まれて帰ってくる、このように日野へのUターンが期待できます。

5) 住民自治を大切にされた地域活動を行う

地域に目を向けてみると、空き家・空き地が増え、農業においても耕作放棄地が増えて、これから更に過疎地域が拡大していくことが想定できます。また、一人暮らしの高齢者が増え、地域産業・農業を始め、地域役員、お祭り、消防団などのなり手不足、後継者不足に悩まされているのが現状です。

こうした中においても、地域の住民自治はしっかりしており、何とかコロナ禍を乗り越えようと、地域コミュニティを再開させている団体も見られてきました。また、なり手不足や後継者不足を解決する手段を見つけていくために、話し合いを継続している組織も見られ、自治の力を結集した独自の動きが現われてきているのも事実です。これらが、日野の強みだと考えています。

こうした現状から更に前進させるには、行政のもう一步踏み込んだコーディネートが不可欠となります。

そのためには、

- ・役場職員が地域の課題を肌で感じてもらうため、公民館で職務を行う。(リモートワーク)
- ・地域活性化コーディネーター(仮称)、公民館職員と共に地域の課題に着手する。
- ・地域の産業・農業を、それぞれの地域に根ざした魅力をつくり発信する。
- ・高齢者が地域の活動、社会活動に参画し、心身の健康維持を図る。
- ・高齢者と子どもたちとの交流により地域の文化を学ぶ機会を設ける。
- ・公民館を移動支援の拠点とする。
- ・公共交通の利用を促進させ、環境にやさしい地域づくりを進める。
- ・公民館を地域経済振興も含め、多様な住民活動の拠点(プラットフォーム)とする。

結果、

7つの公民館を活かした地域の課題解決が進み、住みよいまちづくりが形成されていきます。全世代でコミュニケーションが図られ、地域の誰もが元気になっていきます。

6) 地域循環型社会、地域循環型経済を構築する

農林・商業を営まれている方にとって、肥料や燃料を含む物価高騰は頭を悩ませ、米価下落は農業経営にも拍車を掛けています。食糧自給率が上がらず、町内小売店での消費も増えず、食品残渣物の大半は燃えるごみで廃棄されているのが現状です。木材利用においては、国内産が見直されているものの、未だ未だ浸透させていくには時間がかかるでしょう。

こうした中、地元で得られた物は地元の者が使う買うと言った、地産地消の動きが活発になってきています。地域産木材の利用、地域産食材の使用を町内での消費行動で促し、地域循環型社会を形成していき、農林・商業の経営の安定化を図らなければなりません。

また、進めるにあたっては、これまで地域経済についての現状測定がされていません。特に経済循環についての測定がされていないため、まず現状を測定し目標を定める必要があります。その必要なものとしては、計画や戦略といったビジョンになりますが、日野町の政策の中には、商工振興分野の個別計画が存在しません。具体的な目標と戦略を定めるためには、1次産業も含めて産業振興ビジョンを策定していくことを推奨したいと考えています。

そのためには、

- ・地域経済の現状分析と指標を作成する。
- ・産業振興ビジョンを策定していくために、商工振興分野の個別計画を作成する。
- ・農業振興、商業振興、特産品振興の支援を充実させる。
- ・森林環境贈与税基金積立金を使用し、地域産木材を活用した施設整備を行う。
- ・地域産食材の地域内での商業販売ルートを構築する。
- ・学校給食で地産地消を増やしていく。
- ・有機農業を振興し、学校給食と連携させ、地域農業の確立と子どもの食の安全を図っていく。
- ・日野米、日野産野菜を地域内企業の食堂に使ってもらう。(一部実施されている)
- ・食品残渣、生ゴミを堆肥化し家庭菜園などに活用していく。(わたむきの里福祉会、日野小学校、日野中学校で実施されている)

結果、

有機農業と地産地消の推進で地域内外から日野町が注目され、関係人口が増え、定住移住がしやすいまちとして認知されていきます。同時に町内での消費が増え、地域循環型経済が構築されていきます。

7) 財源を確保する

国から地方へのより一層の税源移譲を進めるとともに、地方交付税を増加させ、臨時財政対策債の発行を抑制し、地方の自主性を高める必要があります。

ふるさと納税や森林環境贈与税を活用して、地域活性化に努めるのも一手です。新たにクラウドファンディングによって財源を確保することも望まれます。

4. まとめ

地域循環型経済とコミュニティ

暮らしの舞台は地域にあって、人が幸せになる土台として地域は重要です。幸い地域の力で活動している7つの公民館が日野町に存在し、地域の源となっっているのも事実です。これら地域の公民館を活かし、本気で循環型の経済構造に変えていくためには、日野町の地域であるならこそ組み直すことができると考えています。ローカルなヒト、モノ、カネの循環から出発し、地域資源を生かした循環型経済を作っていく、子育てや高齢者福祉に力を入れていくなど、地域の魅力を作り出している自治体には人口減少に歯止めがかかります。また、若者にとって、安定した雇用が前提にはなりますが、魅力あるまちづくりを積極的に行っている自治体には、「住みたい、住み続けたい」と思うようになり、定住への志向が高まります。そうした自治体には「応援したい」とする関係人口も増えていくことになるのです。

まちなぎわいと活力の源泉は、そこで生活し、集う人々の健康と安全の確保にあり、健康・医療、学校・保育と連携した「まちづくり」が進めていることを肌で感じてもらうことが必須です。地元で、お金・資源が回る仕組みをつくり、お互いに顔が見える生活圏である「地域」から「日野のまち」を創り出すことが暮らしの豊かさにつながると確信しています。小さくても、一人一人が輝くまちづくりにこの提言書がお役に立つことを期待します。

令和5年4月27日
第17期地方創生特別委員会